

IASBによる意見募集「2015年アジェンダ・コンサルテーション」に対する当委員会からのコメント・レター

ASBJ 常勤委員 せきぐち ともかず 関口 智和

企業会計基準委員会（以下「当委員会」という。）は、国際会計基準審議会（IASB）から2015年8月に公表された意見募集「2015年アジェンダ・コンサルテーション」（コメント期限：2015年12月31日）（以下「本協議文書」という。）に対して、2015年12月にコメント・レターを送付している。

IASBは、IFRS財団のデュー・プロセスハンドブックにおいて、3年ごとに作業計画について公開協議を行うこととされており、本協議文書は、当該定めに基づき、財務報告に関心を有する者から、IASBの戦略的な方向性と作業計画のバランス¹、及びアジェンダ・コンサルテーションを行う間隔について見解を聴取することを目的として公表されたものである。IASBは、2011年に第1回目のアジェンダ・コンサルテーションを行っており、今回のアジェンダ・コンサルテーションは2回目のものである。

本協議文書に対する当委員会からのコメント・レターの主な内容は、次のとおりである。

- (1) 我々は、アジェンダの優先順位を適切に識別するためにさまざまな法域やセクターからのニーズを理解するため定期的な公開協議プロセスをIASBが維持することは極めて重要と考えている。また、我々は、IASBが公開協議を進める際に、以前の協議プロセスにおいて何が上手くいき何が上手くいかなかったのかについて、改めて検討を行うことが重要と考えている。
- (2) アジェンダの優先順位に関して、我々は、以下のプロジェクトが今後の3年間にIASBにとって極めて重要であると考えている。

① のれんの償却

我々は、のれんに関する会計処理の要求事項について再検討を行うことが極めて重要かつ緊急であると考えている。我々は、IASBが現在の「減損のみアプローチ」を「償却及び減損アプローチ」で置き換えることを検討するための基準設定プロジェクトに取り組むように提案する。

② 概念フレームワークの改善

我々は、IFRSの適用により生じる財務情報（特に、「純損益」に示される情報）が高品質であることを確保するためには、「概念フレームワーク」の改善が極めて重要であると強く考えている。したがって、我々は、IASBが「概念フレームワーク」プロジェクト及び資本の特徴を有する金融商品に関するプロジェクト（FICEプロジェクト）などの関連する他のプロジェクトを最終化する前に十分な時間とリソースを費やす（世界中の関係者との十分なアウトリーチ活動の実

1 本協議文書では、IASBの作業計画以外（教育活動やIFRSタクソノミーに関する活動）については見解を求められておらず、これらはIFRS財団から公表されている意見募集文書「体制とその有効性に関する評議員会のレビュー：レビューにあたっての論点」で見解を求められている。

施を含む) ように提案する。

③ 開示原則の開発

我々は、財務報告コミュニティの多くの利害関係者が主要な懸念として言及している「開示の過多」という論点に対処し、企業と財務報告書の利用者とのコミュニケーションの有効性を改善するためには、高品質な開示原則の開発が極めて重要であると強く考えている。したがって、我々は、IASB が本プロジェクトを進めるにあたり十分な時間とリソースを費やすことを提案する。

- (3) 我々は、どのアジェンダを取り上げるかについて決定する前に、IASB は適用後レビューの役割と各国基準設定主体及び地域グループが実施する協議の役割を明確化すべきと考えている。
- (4) アジェンダ・コンサルテーションの頻度に関して、我々は、現在の3年周期から5年周期に変更する提案を支持しない。これは、IASB が、財務報告コミュニティが直面している最も重要な論点に関して利害関係者から十分かつ適時なインプットを入手できなくなるリスクがあるとともに、今日における動的で変化し続ける国際的な財務報告に関する環境を反映するものにならないと考えられるためである。